

- 調査期日 平成25年10月23日
- 調査地 岩手県遠野市
- 調査事項 閉校跡地活用について

民話の里に「閉校跡地」の活用を学ぶ

民生文教常任委員会

10月23日、当委員会では町の学校適正配置計画後の「閉校跡地」活用について、民話で有名な岩手県遠野市の「遠野早池峰ふるさと学校」の所管事務調査を行った。

この学校は、元遠野市立大出小中学校といい、最大在籍者数の時は、小中併せて85名あったという。しかし、平成19年3月31日に保護者・地域住民の話し合いにより閉校となった。当時の在籍者数は、児童2名、生徒1名、計3名であった。

翌年、旧大出小中学校の利活用を考える検討委員会が設置され、遠野早池峰ふるさと学校基本構想及び基本計画が策定された。

主な事業としては、「古の早池峰登山事業」「都市と農村との交流事業・東京都武蔵野市、愛知県大府市」「農産物直売実証事業」等があげられる。

そして、平成22年6月12日旧校舎を活用した「遠野早池峰ふるさと学校」が開校された。

学校に隣接して約1200年の歴史を持つ「早池峰神社」が鎮座し、古の山岳信仰を残して

いる。また、滝や溪流など山地ならではの景勝地があり、四季の移ろいを感じるができるスポットが多数ある。

また、遠野産の木材の活用も計られ道路橋にも利用され景観形成に役立っている。

旧校舎は、木造校舎で各教室がそのまま活用され、そこに展示コーナー・体験教室・そば打ち実習室・座敷童の教室等が設けられ、各種イベント等にも利用されている。

さらに、産直「森の市」では、山のめぐみ（フキノトウ、タラボ、アケビ等）が季節限定で販売されている。食堂「福寿草」もあり完全予約制で山菜、野菜・キノコの定食が味わえる。

利用者数も年々増加し、調査時点で4000人を超えていた。家族、個人のほか、小中高の学校行事、交流事業、合宿、遠足等に利用され、高体連の登山競技ベースキャンプにも利用されている。

自主イベントでは、雪合戦選手権・素人演芸大会・産直の春秋収穫祭・早池峰神社宵宮、例大祭などがある。

これらの企画・立案、運営を行っているのは、利活用検討委員会で、1名の市非常勤職員（ツリーズム活動専門員）がいる。現在は、TV、CMのロケにも対応しているという。

なお、入館料は市の助成により無料（体験メニューの材料費のみ）である。

施設見学・説明等を受けた後に遠野市の職員の方々との質疑がかわされた。

やはり、閉校にあたり地元の学校に対する思い入れが大変強く、何度も話し合いがもたれ、それが利活用検討委員会・早池峰ふるさと学校基本構想・計画にいかされたようである。現在の学校は、地域の人々のよりどころとなっているというのもうなずけるような気がした。

また、PRの方法も「で・くらす遠野（遠野市民制度ファンクラブ）とセットで行っている。我が那須町も似た環境にあり、早急に取り組んでいかねばならない。これらの調査研修を生かして今後の議会、委員会活動に励んでいきたい。

旧校舎を活用した「遠野早池峰ふるさと学校」



閉校跡地活用について説明を聞く委員

